

令和6年9月9日（月）全校朝会校長講話（代読による）

君子危うきに近寄らず

2学期が始まって1週間がたちました。生活のリズムは整っていますか。

校長先生は3年生の社会科見学でお出かけしているため、みなさんにお話ししたいことを代わりに読んでもらうことにします。聴いてくださいね。

今日は9月9日、救急の日です。「きゅう」月「きゅう」日という、語呂合わせで決められました。昭和57年（1982年）、今から42年前のことです。

大きなけがなどで、すぐに助けなければならない人を、いち早く病院へ運んでくれる車は、救急車ですね。その救急車が日本で初めて登場したのは、昭和8年（1933年）。東京では、その翌年の昭和9年、今から90年前に走り始めました。自動車による交通事故がとて増えたため、なのだそうです。急に具合が悪くなったときや、大きなけがをしたときに、今も救急車が多く命を救っています。これは児童のみなさんもよく知っていることだと思います。

さて、けがに関して、校長先生がいつも気にしていることがあります。それは、雨の日に使う、傘のことです。傘の、持ち方を気にするのです。

傘を持ち歩くときは、傘の先を地面に向けて持つのが正しいです。分かりやすいですね。ところが、傘の真ん中を握って横向きに持ったり、傘の先を斜め後ろに向けて持ったりしている大人を見かけることがあります。児童のみなさん、これだけは覚えてください。そういう人を見かけたら近寄らないことです。傘の先が顔などに当たってけがをすることがあるからです。

校長先生は、傘を正しく持っている人を見ると、この人は周りへの気配りが自然にできるのだなと感じます。また、そのような人は、傘すら正しく持てないような人とは、あまり深く関わらないのではないかと思います。

東三小の児童のみなさんには、自分の周りに気を配り、心を配ることが出来る大人になってほしいと願っています。校長先生のお話、終わります。